Academy Campus 2024 大学入試

合格者の軌跡

Story of their Success

進学先

和歌山県立医科大学

保健看護学部

堀田 栞奈さん

海南高校
軽音部

インタビュアー

青石千映
（AC 海南駅前校カウンセリングスタッフ）

志望校を決めた時期はいつ頃だった？

堀田： 家族や親せきに医療従事者が多いということもあって、医療に関わる職業に就きたい、というのは前々から考えていました。和歌山には和医大があるので、和医大の薬学部か看護学部に行けたらいいな、と。最終的に看護に決めたのは、高３の夏ぐらい。

塾に入る前の、高１・高２の頃を振り返って。どんな生活を？

堀田： 定期テストはひどい点数を取らなければいいわ、みたいな感じで。部活や学校行事に専念してました。そんな感じだったので、評定は3.8。

青石： 勉強面で続けてやってきてたことってある？

堀田： 得意科目の英語をとにかく伸ばしたかったので、単語を見たり、YouTubeでリスニングをずっと聞き流してたり、海外のストリーマーの配信を聞いてました。

青石： 他の教科はどう？

堀田： 学校の週1の小テストは合格できるように準備してました。3日ぐらい前に範囲を終わらせて、当日の朝、軽く復習する感じ。

青石： テスト勉強で力を入れていた科目は？

堀田： 英語はテスト勉強は特にしてなかったです。社会、理科を中心に。数学は苦手だったので半分諦めてました。

青石： 文理選択は？

堀田： 理系の方が選択肢が広がると思って理系に進みました。薬学部にも興味があって、その時はまだはっきり決めきれていなかったので、とりあえず幅は広げておこう、と思って。理科は、単純に生物が好きという理由で選びました。

青石： 学年順位はどのぐらいだった？

堀田： 模試ではずっと変わらず学年で10位前後でした。いい時で8位ぐらいかな。定期テストは言えません…(笑)

受験勉強を始めようと思った時期はいつ頃？

堀田： ２年の秋ぐらいから、周りの空気が少しずつ変わり始めて、私もやり始めないとちょっとやばいかなと思ってはいたものの、まだ部活もあるし、秋は軽音部のイベントが多いので忙しかったし、文化祭もあったし…動き始めたのは２年の冬でした。
まず家族に「塾に行かせてください」って頼みに行きました！(笑)とりあえず、薬学部で必要な科目を調べて、科目数の多さと、苦手な数学の二次試験の配点の高さに、これはやばい！と思ってお願いしました。
塾に行くようになるまでの期間は、理系科目の復習を始めました。あと英単語や古文単語を覚えるようにしてました。

高3春に入会。まだ部活もあって、本気モードではなかったね。

堀田： そうですね。本気モードになったのは、高３の夏、コンクールの後ぐらいやったかな。

青石： 夏休みはどのぐらい勉強を？毎日来てたね。

堀田： 学校の補習が終わってから塾に来て21:30まで残ってたから、10時間はやってたかな。夏休みも数学中心で、あとは倫理・政経をつめこみました。数学は黄チャートの２周目を。その時はまだ、看護学部に決めたわけではなかったので、ⅠＡⅡＢ全部やろうとしてました。夏休みの途中で看護に決めて、ⅠＡだけに。
理科も２科目勉強していたのは途中まで。化学は有機化学とか無機化学とか、苦手な分野を中心に問題を解いて、生物は用語の復習を。学校の教材しか使ってなかったです。

青石： 秋になると、友達が推薦やらなんやらでどんどん進学先が決まりだして…

堀田： その時期ぐらいから病み始めましたね。でも１番しんどかったのはやっぱり共テ前かな。学校でも塾でも共テ形式の演習中心の授業になって。目標の点数が取れないと、もうメンタルがボロボロで。でも１週間前ぐらいになったら「あと何日で終わり！」みたいな感じで逆にテンションが上がってました。和医大は二次試験は教科の試験がないので。終わったら、あれしよう、この本読もう、みたいな感じで (笑)

青石： 夏休みはそんなにしんどくなかった？

堀田： 勉強するのが習慣になったというか、学校が終わって塾に行く、というのが生活の一部になっていたので、これが普通かな、っていう感じでした。１人では無理だったと思います。

共通テストが終わって。どうだった？

堀田： 詰んだ！！と思いました。過去問や演習ではもっと取れていて、リーディングなんかは、調子いい時は８割は取れていたので。ただ、共テでどんな結果になったとしても、自宅から通える看護系の大学へ、と思っていたので、国公立大は和医大、私立大なら東京医療大か宝塚医療大と考えていました。私立はどちらも一般で受験したので、共テが終わってから準備を進めました。滑り止めが何にもない状態で和医大を受験する決心をするのは怖かったから、東京医療大の特待が取れた時の安堵はほんまにやばかったですね！私大の対策は、過去問の演習を中心に。共テと同じマーク式だったので、そこまで大変ではなかったと思います。それと並行して、和医大用の面接・小論文の対策もやっていました。

青石： オープンキャンパスに行けてなかったし、和医大の魅力を深く考えるのが難しかったね。

堀田： それが一番苦労しましたね(笑)結局、試験当日は、ほんまに練習してきたことばかり質問されたから、それ知ってる、これ言えるやつ！と思ってしゃべってきました。

ＡＣの授業や、イベントについて教えてください。

堀田： EQがめちゃくちゃよかったです！長文を読んでいても、あ、これEQでやったやつというのがいくつもあって。やってなかったら、熟語なのにそのまま単語と単語をくっつけた意味でしか取れなかったものもあるし。

青石： 夏特訓（AC特別講座）は？

堀田： とにかく“量“って感じやった。ひたすら問題を解いて、みんながつまづいている問題を、先生が解き方をレクチャーしてくれる。時短の方法とかも教えてもらえました。夏に教えてもらえたのがよかった。数学は苦手で最後まで問題を解ききれないこともいっぱいあったから、速く解く方法を教えてくれたのがよかったです。わからない問題も、ほんまに根本的なことから教えてもらえたし。

青石： 普段のＡＣライブ（共通テスト攻略数学）は？

堀田： 少人数だったので、みんなの理解度を随時確認しながら進めてもらえたのがよかった。テキスト以外にも、それぞれの弱い単元の類題を作って説明してくれたり。わからない部分を根本からたたき直してくれました。丁寧に説明してくれてほんまにありがたかったです。

青石： サテラインは？

堀田： 畠山先生の倫・政がすばらしかったです！ほんまによかった！倫・政はそもそも私興味がある分野で。哲学とかも大好きで。哲学って教科書だけでは何を言っているのかわからないことも多いんですけど、畠山先生の授業は、イラストと共に説明してくれたからすごくわかりやすかった。参考書も買って、サテラインの復習に使ってました。この哲学者の本が面白い、とか、受験生が読むといい影響を受けるんじゃないか、とか、そういうことも授業の中で言ってくれたから、より興味が深まりました。政経分野でも、今の日本の政治やウクライナの話とかもからめて話をしてくれたし、経済や銀行の仕組みなど、この先の人生においても使えるような知識が多かったので、よかったです。ここは深くわかっておけ、ここは浅くていいということも随時言ってくれたので、勉強しやすかった。

青石： 学校では倫・政は習わない教科やもんね。

堀田： 海南では公民は現代社会しかしないけど、和医大の薬学部は現社をつかえなくて。でも私は２年で日本史Ａを選択してしまってて、日本史Ａも使えないということがわかって。塾で倫・政の授業を受けることにしました。

青石： 理科は？

堀田： 亀田先生がわかりやすい、というのは大前提で。模型を使ったり、身近なものに置き換えて説明してくれたり、語呂合わせや色！特に有機分野は、色ってめっちゃ大事。まとめノートを作る時に、物質の色をシャーペンで書くんじゃなくて、色鉛筆のその色を使って物質名を書く。そうすると思い出すときに、あーあの色で書いたな、って思い出せたから、ほんまによかったし、面白かったです。生物は、もともと好きな科目だったけど、原理を教えてくれる時間や問題演習中心の授業・解説とかがわかりやすかったから、受けてよかったと思います。生物が嫌いな子や苦手な子は絶対受けた方がいい！基本から教えてもらえるから。

大学生活や、将来の夢など教えてください。

堀田： 助産師になりたいと思ってます。大学院に合格できるように４年間ちゃんと勉強しないと。部活は、ギターをやりたいので軽音部かな。

最後に、後輩へのアドバイスをお願いします！

堀田： 目指す学校にもよるけど、レベルの高い大学・学部に行きたいと思ってるなら、１年の時点からそのつもりで勉強した方がいいと思うな。あと、環境はめちゃめちゃ大事やなって思った！普段の定期テストの勉強が家でできない人は、受験勉強になっても絶対家ではできないと思うから、どこかしら集中して勉強できる場所を作っておくといいと思う。私にとってはそれが塾で。一人やったら絶対無理でした。先生たちもみんなフレンドリーだから、雑談でも悩みでも、なんでも話せました。
あと、英語・数学の基礎固め、ほんまに大事。私は数学が全然固まってなかった。とりあえずやり方を覚えただけで全然応用できてなかった。英語はほんまに単語力がモノを言うと思う。単語がわからないと無理。単語がわかれば読むスピードも一気に上がると思うし。ほんまに基礎が、とにかく大事。
あとは、病むつもりでおった方がいい。まわりがどんどん合格して、自分だけ残ってる、みたいな状況で、みんなそれで病んでいくから、そういう状況になることを念頭に置いて勉強した方がいいし、自分と同じような受験を目指す友達は作っておいた方がいい。みんなが合格して抜けて行ったら、もう自分もこのぐらいでいいか、っていう気持ちになってしまうこともあるから。塾にはそういう友達がいっぱいいたから、助けられました。
あとは、勉強したつもりになってるだけ、というのがたまにあって。やってるけど全然頭に入ってないし、点数にもつながらん、みたいな。それって、ただ問題を解いてるだけなんですよね。どこで何を間違えたのか、どうしたら改善できるのか、とかちゃんと考えずに、ほんまに右から左へぬけていく、みたいな。だから、定期的にほんまにわかるようになったんかな、って考え直した方がいいと思います。

編集後記 ～インタビューを終えて～

最後のコンクールが高3の夏休み前だったため、他の受験生より少し受験生活のスタートが遅れましたが、入校してから共通テストまで、堀田さんを見ない日はない、来ていない日は心配する、というぐらい、ACの自習室を使って勉強していました。休日の朝が少し弱いようで、朝から実施した勉強会や特訓などは、前日に念押しし、当日堀田さんが来るまでみんなでハラハラする、という状況でしたが(笑)、休んだりサボったりすることなく、頑張っていました。堀田さんの勝因の1つは、やはり夏までに英・国の基本的な知識が頭に入っていたこと。看護学部の共通テストは、苦手な数学の配点が高く、少し心配しましたが、英語・国語にそこまで時間をかけなくても安定して点数がとれていたので、数学の勉強時間を確保することができたということは大きかったと思います。堀田さんにとってACが集中して勉強できる場所、友達と一緒に頑張れる場所になっていたようで嬉しいです。助産師か小児科の看護師を目指したい、と話してくれましたが、これから始まる新しい生活が充実したものであるよう祈っています。ありがとうございました！

AC海南駅前校カウンセリングスタッフ 青石 千映